

名前：

今日、世界中でインターネットの使用が可能となりネットを通じてニュースを見ることができるようになった。そのため、もう新聞や雑誌はいらなくなる、という意見がある。だがそれは本当だろうか。新聞・雑誌とインターネットの違いをいまいっ、この問題を考える。まず前者について。新聞や雑誌は目次があり、構成などもある程度の統一感があるため、どのような内容の記事がどこにあるのか把握しやすい。また紙の媒体であるため携帯が可能であり書き込みや折り目をつけて目印にすることが可能だ。扱いやすさは大きな長所であり、たいした設備もない売店でも売ることが出来る。反面、実体として存在する分、配達や販売には人手が必要である。新聞の場合、印刷費用等の点から紙面の大半は白黒であるし、カラーの部分にしろ画質の悪さは否めない。雑誌の場合、鮮やかな色使いの物も多く画質も良いが、それなりの値段があり、週や月といった比較的長いスパンで発

行される。では後者のインターネットはどうか。内容は会社により違いはあるものの、慣れれば新聞と比較して劣る、というとは感じないが、ノートパソコンなどで見たにしろ紙媒体に比べ携帯しづらい。目印をつけるのも、一般的な人々の操作技術から見て難しい。通信回線などの設備も必要である。だが良い点も多くあり将来性考えるとインターネット、すなわち電子媒体に圧倒的に分があるだろう。まず、今後ユーザーインターフェース等多めた技術は進歩するだろう。軽量で高性能な使いやすい端末も現れるだろうし、ワイヤレス回線の発達・普及により電子媒体の利便性は飛躍的に高まるはずだ。自分の小型端末に駅のブースから自動的に契約した会社の記事があるいは電子化した新聞・雑誌のデータが送られるようになるかもしれない。少なくとも、配達・販売の人員や膨大な紙などは不要になり経済性や効率性は高まる。紙面の色使いも、印刷という制約がない電子媒体の方が

1800字

より優れたものになるだろう。

以上のような推定から、私は新聞・雑誌は  
いすい電子媒体に吸収され、その重要性は低  
下すると考える。